

けんこう静岡

第143号

令和2年
(2020年)
10月1日(木)季刊 1部50円 年200円
(送料税込)

発行所
公益財団法人 静岡県予防医学協会
http://www.shsa.net/

(静岡事務所) 〒421-1292 静岡市葵区建部1-3-43 (054) 278-7716
(藤枝健診センター) 〒426-0053 藤枝市善左衛門2-11-5 (054) 636-6461
(総合健診センター) 〒426-8638 藤枝市善左衛門2-19-8 (054) 636-6460
(沼津事務所) 〒410-0011 沼津市岡宮1210-1 (055) 921-1934
(浜松健診センター) 〒435-0006 浜松市東区下石田町951 (053) 422-7800

発行責任者 石黒 満 印刷 松本印刷製

静岡県予防医学協会の始まり

協会設立の原点を振り返る



公益財団法人 静岡県予防医学協会 顧問 石黒 満

1 はじめに

当協会は、公式には昭和34年(1959年)に「静岡県寄生虫予防医学協会」(任意団体)として発足し、いくつかの組織改編を経て、現在に至り、早や61年目を迎えました。

これもひとえに、県・市町、医師会や学校・事業所、そして県民の皆様の支えがあったからこそ感謝の念にたえません。

「みんなの健康を守る」との理念のもと、協会設立に携わったひとりとして、スタートラインに立った当時に思いを馳せ、今一度歩みを振り返ってみたいと思います。

2 協会設立に至るまで

私は昭和23年7月、15歳の時に肺結核を発症、自宅療養2年後に聖隷保美園療養所に入所、昭和28年5月、20歳の時に胸郭成形手術を受け、術後1年を経過した頃に、療養所の敷地内に新設されたアプターケア施設に入所し、回復期の職業訓練として1年半ほど臨床検査技術を学びました。その当時の臨床検査室長が、回復者ばかりの気楽な談笑の中で「検査室でもやったら?」と言った言葉が妙に脳裏に残っています。

昭和31年5月、退所の翌日から、主治医の斡旋により浜松市内の開業医の臨床検査室に勤務することができました。私はよかったです、が、当時、結核の回復者は世間に疎まれ、厳しい就職難の時代でした。結核療養の過去を隠して就職し、無理して過重労働の末に再発した



昭和30年12月20日頃
本人
(聖隷保美園療養所検査室にて)

方もあると聞き、心を激しく揺さぶられていました。

それなら、回復者ばかりの職場をつくり、一般の開業医からの検査物を集めて、その検査結果を迅速に届けて代金をいただくような活動をする臨床検査所を確立すればどうだろうか?患者さんの検査物を早い時期に扱って、検査結果に基づく治療を進めてもらえば早期回復にもつながるからとの思いも残り、考えた末、後任者が決まったのを機会にこの職場を退職しました。失業保険で生活をつなぎながら、なるべくお金をかけないようにして開業の準備を始めました。

開業場所は、浜松市内の古くからの知り合いの外科病院の先生からのご厚意で、空いている旧手術室を「浜松衛生検査研究所」の名前で使わせていただくことになりました。検査室を整備するために、細菌培養用のフラン器など温度調節用のサーモスタット以外は杉材と毛布で自作し、使用試験を繰り返してうまくいくことを確認して完成させたものです。広告宣伝も、ガリ版印刷と言われた謄写版によるもので、それも鉄筆とやすり、インク、ローラーとスクリーンなど最小限の物品で済ませて、何とか開業にこぎつけました。

いろいろな検査物の料金を決め、知り合いの開業医の検査物を1人で扱い、半年後には何とか採算が取れる見込みが立ちました。従事者も任意時間勤務の回復者ばかりで9人ほどになり、機動力には、自転車のはが、当時出たばかりのスズキのオートバイも加えていきました。

やがて、世間の結核の回復者を見る目も変わり、比較的容易に再就職できるようになると、心臓病の後遺症やがんなどの疾患を抱える回復者の方々にも雇用を呼びかけていきました。その後、職員雇用に関しては、回復者にこだわらず仕事目的になった人を求めるという



昭和34年頃 浜松の検査室

ことで、次第に普通の雇用形態になりました。

また、開業医のための検査所が他所でも設けられてからは競合を避けて、私達は集団検査を主とした予防医学を事業目的とすることに舵を切りました。

3 「静岡県寄生虫予防医学協会」(任意団体)を設立

当時は、住民の寄生虫保有率は高く、公的な保健衛生機関だけでは小学校等からの集団検便の需要を十分にまかなえない状況にありました。この研究所で、集団検便、集団駆虫を専門として寄生虫予防運動を行えば、県民の衛生状況の改善に非常に有効であろうとの思いがありました。

昭和34年に「浜松衛生検査研究所」の寄生虫検査部門と当時静岡県内に事務所があった「静岡県寄生虫予防医学協会」を一体化して、新たな「静岡県予防医学協会」として任意団体を発足させました。今思えば、集団検査と予防運動への転換は必然だったと思えます。

ここで、昭和36年当時の状況を推測できる手紙を紹介させていただきます。

当時研究所に勤務していた職員9名一同の連署で、私も大変お世話になった聖隷保美園の入所者の皆さんを元気づけ、希望を持って療養していただくようにとの願いを込めて書いた手紙(昭和36年11月26日付け)の一節です。

「……私達に就職を希望する身体障害者・回復者があれば可能なかぎり道を見つけ出したい

4 結びに

その後、時代の要請に応じて協会組織の充実を図り、別表のとおりの変遷を経て、今日に至っております。その中で、私にとって特に思い出深い出来事が、前述の手紙の一文にある健康を守るシステムを、数々の苦勞の末、ようやく平成9年藤枝の地に「総合健診センター・ヘルスポート」(現「藤枝健診センター」)として実現できたことです。

しかし、より以上の健康をつくり出すシステムは未完であり、新型コロナ禍の多難な時代を迎えています。これからも当時の思いを深く胸に刻み続け、実現に向けて前へ進んでいこうと思います。

終わりに、今後も、当協会への変わりぬく支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



昭和34年頃
本人 (最初の機動力)

◎協会組織の変遷

昭和34年	「静岡県寄生虫予防医学協会」(任意団体)を設立 (同年4月1日)
昭和42年	「財団法人 静岡県寄生虫予防医学協会」を設立
昭和47年	「財団法人 静岡県衛生検査協会」と改称
昭和58年	「財団法人 静岡県予防医学協会」と改称 ※平成24年4月に公益財団法人化
平成9年	「総合健診センター・ヘルスポート」(藤枝市善左衛門2-11-5)を開設
平成24年	「総合健診センター・ヘルスポート」を新築移転(藤枝市善左衛門2-19-8)



平成9年開設 総合健診センター・ヘルスポート
(現 藤枝健診センター)

静岡県予防医学協会

<基本理念>

みんなの健康を守る

しずおか健康長寿財団

だより 34

しずおか健康づくりサポーター&県民 連携・協働のつどいの開催

県民の健康づくりに協力している「しずおか健康づくりサポーター」の企業・団体と県民の皆様の交流のつどいを開催します。新型コロナウイルス感染防止対策として、入場制限により「3密」とならないように努めます。参加には事前申し込みが必要になります。

1 日 時 令和2年11月12日(木) 13:30~15:30 (受付開始13:00)

2 会 場 プラサヴェルデ3階 コンベンションホールB
沼津市大手町1-1-4 (JR沼津駅北口徒歩3分)

3 内 容 健康づくりサポーター等による活動発表

《オンライン公開》

講演会・実技

講師 東海大学体育学部教授 久保田 晃生 氏

外出自粛や在宅勤務が多くなるなかで、どのように運動不足を解消していくのかをテーマにお話と実技指導を予定しています。

4 入場無料 事前に申し込みが必要です

5 申込・問合せ先

電話またはFAXでお申込みください。

静岡市葵区駿府町1-70

(公財) しずおか健康長寿財団内

しずおか健康いきいきフォーラム21

電話 054-253-4221 FAX 054-253-4222

※新型コロナウイルスの感染が拡大した場合は中止することがありますのでご承知おきください。



多彩な事業で、皆さまの健康・生きがいづくりをお手伝い!

しずおか健康長寿財団では、中高年者の健康・生きがいづくりをお手伝いするため、様々な事業を行っています。

○「第24回静岡県こよか長寿祭美術展」の作品を募集しています

日本画、洋画、彫刻、工芸、書及び写真の6部門で作品を募集しています。この美術展は「ねんりんピック岐阜2021」の選考会も兼ねます。

参 加 資 格	昭和37年4月1日以前に生まれたアマチュアの方
出 品 作 品	出品者により創作された未発表作品とします
出 品 料	1作品2,000円(1人1部門につき1点、複数部門出品可)
出品申込締切	令和2年11月20日(金) *当日消印有効です。 (当財団ホームページから出品申込書のダウンロードができます)

優秀作品には賞状と副賞を贈呈します。

申込みいただいた全作品を令和3年1月22日(金)~1月31日(日)の間、静岡県立美術館県民ギャラリーに展示します。



前回の【日本画部門】
県知事賞作品
「魅惑の樹」



前回の【洋画部門】
県知事賞作品
「WINDOW」

【問合せ先】 公益財団法人しずおか健康長寿財団
Tel 054-253-4221

〈保健指導講話〉
コロナ時代を生き抜く

川口 知香

浜松健診センター
保健師

2020年が新型コロナウイルス(COVID-19)という目に見えない敵にここまで侵害されるとは、誰も想像していなかったことでしょう。ニュースでは毎日のように新型コロナウイルスに関して報道されていますね。また、新型コロナウイルスに関する情報量の多さに、何が正しい情報なのか私たちは選択を迫られ、翻弄される日々を送っています。新型コロナウイルスによる社会的変化が原因で仕事を失った人、生活が一変した人がいることをたくさん耳にすると、誰もがつらい気持ちになり危機的状況を感じずにはいられないと思います。しかしながら、感染症専門家や研究者の先生方の多大な努力によって分かってきたこともあります。今回、それを元に私たち個人としてどのように向き合っていく行動したらいいのか、考える機会になれば良いと思っています。

☆新型コロナウイルスについてわかってきたこと

感染源はコウモリが疑われていますが、確証は得られていません。

感染経路は飛沫感染・接触感染で、エアロゾル感染(空気の流れの悪いところでは数時間くらいウイルスが浮いて感染する)も注意が必要です。潜伏期間は2~14日です。発症日を0日として、2日くらい前~7日目までは感染力が強いようですので、その期間に接触した人は感染している可能性が出てきます。

症状の中で多く出ているものには、発熱・咳・息苦しさ・喉の痛み・嗅覚味覚障害があります。しかしその一方で、半数以上の人が無症状とも言われています。無症状のうちに他人にうつしてしまうことから、かなりのスピードで蔓延してしまっています。軽症者のほとんどの人は元気に回復しますが、重症化する人は発症から7~10日目で突然悪くなるので、そこは見逃してはいけません。また、リスクの高い高齢者で流行すると、重症者数や死者数が一気に増え医療現場が逼迫するので、爆発的増加は避けたいところです。

☆私たち個人ができること

新型コロナウイルスは飛沫感染と接触感染によって感染することがわかっているの、やはりその予防に(感染している場合は他の人にうつさないように)、各個人が忠実に努めることがとても大切です。

飛沫感染の予防においては、もうすでに皆様の習慣となっているマスクの着用が有効とされています。主に他人にうつさないことが目的です。マスクの材質によって効果に差があるのでご注意ください。

接触感染の予防において、一番大事なことは手洗いです。ウイルスは人の皮膚から直接入り込むわけではなく、粘膜を介して人の体に入り込みます。ウイルスが残存したところに触れた手が顔に触れたり、その手で食べ物を食べることで感染します。

あとは3密を避けることが重要です。3密のポスターをいろいろな場所で見かけるようになりましたね。①換気の悪い密閉空間 ②多数が集まる密集場所 ③間近で会話や発声を密接場面を可能な限り避けることです。自分がすでに感染してしまっているかもしれないと思いながら、新しい生活様式に取り組んでいかないとはいけません。

☆コロナとともに生きていく時代

自分がいつ感染し重症化するかもしれない、それを思うと不安で、感染者数が多い地域を避けたい気持ちになります。しかし、普段感染予防に気をつけていても、居合わせた人があとから感染していたことがわかった、不特定多数の人と接する仕事をしていて感染経路が不明である、重要なプライベートの用事で他の地域を訪問したなど、意図しないところで感染してしまうことがあると思います。

でも、感染した人や感染者が多い地域を、決して差別したり非難したり、いじめや誹謗中傷の対象にしてはいけません。攻撃を受けた人はその地域に住めなくなったり、心理社会的ダメージを受けるといふニュースも耳にします。誰が悪いわけではないのです。こんな時代だからこそ、お互いを思いやる気持ちを忘れず、この新型コロナウイルスとともに生きていく術を見つけて乗り越えて行けるよう、助け合って生きていきたいですね。

参考・引用資料:「新型コロナウイルスのNow!第2派」公立衛生病院 感染症内科 武藤義和先生
: COVID-19(新型コロナウイルス感染症)が及ぼす心理社会的影響の理解に向けて
重村 淳先生他

イラスト:厚生労働省 新型コロナウイルス感染症について HPより



ご予約はこちらから



みなさまに支えられて30周年

トヨタレンタリース 浜松



浜松駅前店 ☎ 0120-61-0097 天王店 ☎ 0120-10-2234
元城店 ☎ 0120-01-0071 磐田駅前店 ☎ 0120-30-0211
高台店 ☎ 0120-56-6650 掛川店 ☎ 0120-71-0095

ネットで簡単予約!! <https://www.r-mark.co.jp>

営業時間 8:00~20:00 年中無休(時期により短縮営業の場合あり)



本校は、島田市の西部に位置する全校児童368名の中規模小学校です。山や川、田畑などの豊かな自然に囲まれて、学校の近くを大井川鐵道のSLが通過しています。

素直で明るい児童が多く、休み時間には運動場や中庭など屋外で元気に遊んでいる姿をよく見ることが出来ます。その一方で、児童の中には登校することや教室に入ることに對して不安を抱えている児童もいます。現在、保健室登校や別室登校といった児童はいませんが、保護者と共に登校し、登校後に保健室で一呼吸置いてから教室に入ることに對して不安を抱えている児童もいます。現在、保健室登校や別室登校といった児童はいませんが、保護者と共に登校し、登校後に保健室で一呼吸置いてから教室に入ることに對して不安を抱えている児童もいます。



以前からある活動に對して児童は責任を果たそうと取り組むことができています。本校の今年度の重点目標は、「やってみよう自分から、かかわろうあたたく」です。保健委員会では、「やってみよう自分から」の第一歩として、全校のみんな

島田市立五和小学校

養護教諭 亀山 有梨

いくために何が出来るかを考え、児童会の保健委員会の活動を見直し、保健委員会では、健康・安全に関するポスターや保健についての作成、かぜ予防について教職員へインターネットをのこるコミュニケーションが大切だ」と思い、放課後は保健室

い4月の初め、全ての窓を全開し、マスク着用を余儀なくされましたが、それぞれの希望が詰まった呼名は、忘れられません。

本校は、校訓「誠意と情熱、そして無限の追求」のもと、「高め合う仲間」を学校目標としています。各学年



静岡市立竜爪中学校

養護教諭 池尻 暁子

4クラスあるので、切磋琢磨するのに十分な集団です。7月には、生徒主導で体育祭の色別抽選会と結団式がありました。短時間で3密が重ならない配慮が、生徒のユニークなアイデアが場を盛り上げ、数ヶ月ぶりに全校生徒が集まり、生徒



「かわろう あたたく」が感じられます。児童の「やりたいう」を大切にしながら、委員会活動を進めています。児童が心身ともに健康に、そして安心して登校することが出来るように今後も教職員と連携をとりながら、保健室からサポートをしていきたいと思っています。

げんきな事業所

東遠学園組合

(菊川市西方4345番地の2)

【事業所紹介】

東遠学園組合は昭和45年(1970年)3月、当時の掛川、小笠、周智地区1市7町1村で一部事務組合を設立し、昭和46年5月に知的障害児施設として開園しました。

以来、学園を卒業して就労した人たちの生活寮やグループホームの受託、障害児幼児の早期発見・早期療育、障害をもつ在宅者への相談支援、居宅・訪問生活支援、重度重複障害者等、要望に応えるべく障害児・者の支援にあたっています。現在、3市1町

(菊川市、掛川市、御前崎市、森町)の構成となり、乳幼児期から学齢期、青年期まで4部門(幼児・児童・青年・在宅)7事業を運営しています。組合構内に知的障害児施設として、昭和46年5月に知的障害児施設として開園しました。

以来、学園を卒業して就労した人たちの生活寮やグループホームの受託、障害児幼児の早期発見・早期療育、障害をもつ在宅者への相談支援、居宅・訪問生活支援、重度重複障害者等、要望に応えるべく障害児・者の支援にあたっています。現在、3市1町

「職員健康づくり・健康支援への取り組み」

毎朝、始業前にラジオ体操を実施し、毎日人間ドック受診者や、インフルエンザの予防接種者に、負担金の一部を助成しています。また、職員のメンタルヘルスの取り組みとして、外部カウンセラーによるカウンセリングの体験や、カウンセリングを受けた職員に負担金の一部を助成、保養施設やスポーツ、娯楽施設等を利用した場合同様、利用料の一部を助成し、職員のメンタルヘルスの向上に努めています。

インフルエンザ、ノロウイルス等の予防に努める感染症対策委員会の中で、今現在問題となっている新型コロナウイルス感染症についても取り上げ検討を重ねています。感染症予防対策の強化、今後の対応について職員間で共有を図りBCP(事業継続計画)の作成を始めたところですが、BCPとは、「大規模災害等の際に、混乱を少なく事業を継続する



東遠学園外観



メンタルヘルス研修の様子

健康診断の検査項目について

Vol.16

健康診断でよく行われる検査項目について、その働き・基準範囲・疑われる疾患などを解説していきます。

〔がんの手がかりを得る検査〕

がん細胞がつくる特徴的な物質の量や種類を調べて、存在の手がかりにする検査です。

●腫瘍マーカー

がんの種類	特に有用性が認められる主な腫瘍マーカー
肝がん	α-フェトプロテイン(AFP)、PIVKA-IIなど
膵がん	CEA、CA19-9など
肺がん	CEA、SCCなど
前立腺がん	PSAなど
子宮がん	SCCなど
卵巣がん	CA125など

藤枝健診センター健診検査課主任 高田 雅紀

ハンセン病人権マンガ「麦はあゝ島」(すいれん舎 著者 古林海月さん)に出合っ

静岡事務所 杉山 清夏

当協会は静岡県健康福祉部疾病対策課からの依頼を受けて、ハンセン病療養所入所者里帰り事業の事務を受託しています。ハンセン病療養所入所者里帰り事業とは、静岡県出身の入所者が故郷である静岡県に里帰りしてもらうことで、長年に亘って苦勞を強いられてきた入所者の福利厚生を図るものです。また、ハンセン病に対する県民の理解を深めるための事業でもあります。

当会では毎年職員が里帰り旅行に同行し、二泊三日の短い期間ですが入所者の方々と交流しています。これまでに多くの職員が参加しており、私も現在はこの事業の事務を担当していますが、新入職員時代に里帰り旅行に参加しています。

さて、私が出合った読本「麦はあゝ島」は、瀬戸内海の長島にある国立ハンセン病療養所「邑久光明園」を舞台に、作者が聞き取った、らい予防法によるハンセン病隔離政策が行われていた当時から現代までハンセン病患者やその家族が偏見や差別のなかを生きてきた体験談をもとに、マンガで丁寧に描かれています。「邑久光明園」には、静岡県出身の方も入所されていて、毎年里帰り旅行にも参加されており、大変緑のある施設でとても身近に感じています。

この本は、誤った知識や周囲の過度な反応による差別のために、家族と断絶しなければならなかった事情など、登場人物に感情移入して、長編であることも忘れて一気に読み進めることができました。里帰り旅行に同行した際に、入所者の方から苦勞されたお話を聞いた時も、故郷や家族に対する思いは特別なものを感じました。実際に帰ることはできないけれど、家があった近くを通りたいとの願われる方もいらっしゃいます。

ハンセン病は隔離政策により、患者の排除だけでなく、社会への正しい情報提供を遮断するために、噂や過度な心配が膨らみ、長い間差別が残りました。未知なものに対する恐怖は誰にでもあります。それが病気なら、なおさら病気になりたくないとの強い思いから視野が狭くなりがちです。現在の新型コロナウイルス感染症でも同じことが言えるのではないのでしょうか。患者本人だけでなく、家族や医療従事者に対する偏見や差別の報道もありました。私はこの本から、病気になった人が悪いのではなく、本当は誰もが病気になる可能性があり、もしなっても、安心して治療に専念し、家族も十分にサポートできる環境が望ましいと痛切に感じました。その環境を作るためにも、何気ない噂話をすることも排除や差別につながることを忘れてはいけないと思います。大切なことは、正しい情報のもとに、正しい感染予防をすることです。

この本の作者の願いは「誰もが間違える可能性があり、過去から学ばねばならない。」ということです。ハンセン病と新型コロナウイルス感染症を比較することはできませんが、この機会にハンセン病の歴史を学ぶきっかけとして、一人でも多くの方にこの本を手にとってもらえたらと願います。

*ハンセン病

ハンセン病は弱い菌による感染症であるが、らい菌は極めて感染力が弱く、感染したとしても発症することはごくまれである。また、仮に発症しても、現在では化学療法等の進歩により早期治療によって後遺症なく治癒することができる。



伊藤係長(公社)全国労働衛生団体連合会 功績賞を受賞

公益社団法人 全国労働衛生団体連合会は、長年労働衛生関係業務に精励しその向上に功績、貢献のあった方々に対して、毎年表彰を行っている。今年は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、東京での表彰式は中止となったが、当会浜松健診センター総務課の伊藤係長が功績賞を受賞した。

伊藤係長は、平成12年に事務職員として当会の主要拠点である西部検査所(現:浜松健診センター)の総務課に配属されて以来、21年に渡り一貫して労務関係および請求等の業務に従事してきた。総務としての業務全般に関する知識に精通しているだけでなく、業務そのものに対する精度も高い。また、課内における職員間だけでなく、他課の職員とも円滑なコミュニケーションを図ることができる大変貴重な人材である。

また、業務に対して前向きで真摯な態度は、上司や部下からも信頼を得ており、職場の円滑な運営に寄与している。

今後も予防医学事業推進のための活躍が期待され、当協会の理念である「みんなの健康を守る」の実現に向けて、より一層の戦力となっていくと期待している。

静岡県予防医学協会 総合健診センター
ヘルスポートだより人間ドック受診者数の推移と
年齢別受診者数をお知らせします

総合健診センター・ヘルスポートでは、人間ドックを実施しており、毎年多くの受診者の皆様にご利用いただいております。令和元年度は平成30年度に比べて323人増え、合計12,940人の方々に受診していただきました。



近年の人間ドック受診者の推移は表1のとおりで、年々増加しています。また、令和元年度の年齢階層別ドック受診者数を表2に掲載いたしました。現在、成人の方からご高齢の方まで幅広い年齢層の方々にご利用いただいております。当施設では、どの世代の方にも、安心して快適な、ゆとりのある健診が出来ますよう様々な配慮を行っております。今後も、県民の皆様にご満足いただけますよう健診体制の充実と精度の向上に一層努めてまいります。



表1 人間ドック受診者数の推移

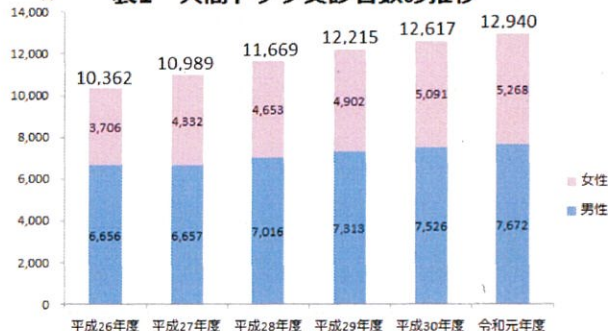
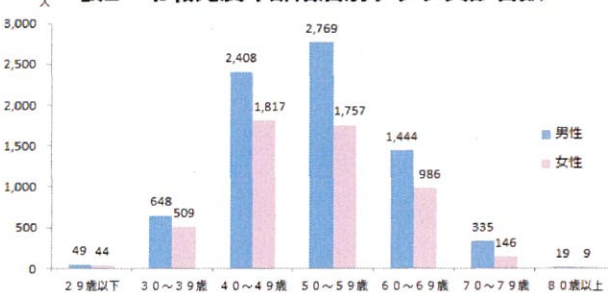


表2 令和元年度年齢階層別ドック受診者数



安心・快適な空間でどの世代の方にも快適!

- ・すべての健診が1階のワンフロアで受診可能
- ・冷暖房・空気清浄器・加湿器を完備
- ・吹き抜けと中庭のある空間で気分もゆったり、リフレッシュ
- ・女性専用のリラクゼーションルーム・パウダールームを完備
- ・中庭と南面テラスに囲まれた明るい食事スペース

など、様々なおもてなしで快適に人間ドックを受けられます。笑顔と心配りを大切に、職員一同お待ちしております。ぜひ今後もご利用ください!



<お知らせ>

本年度「学校保健セミナー」及び「産業保健セミナー」(当協会主催)の開催中止について

新型コロナウイルスの感染流行を踏まえ、感染予防の観点から、本年度は当協会主催の両セミナーの開催を中止させていただきます。皆様には、ご理解の程よろしくお願い申し上げます。